

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：24513

学校名：大谷地東小学校

	令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈	○前回の記録より下回った種目 立ち幅跳び、反復横とび、20m シャトルラン、 50m 走、ソフトボール投げ	運動後のクールダウンを取り入れることで、課題となっていた柔軟性の向上につながっている。一方、瞬発力や持久力等に課題が残り、新たな手だてが必要である。
体力・運動能力 ＜女子＞	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 長座体前屈、反復横とび、 20m シャトルラン 50m 走、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 握力、上体起こし、立ち幅跳び	リズム縄跳びを準備運動として行うことで、瞬発力や全身持久力の向上につながっている。一方、柔軟性や筋パワーの向上に課題が残り、新たな手だてが必要である。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	○「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」と回答した児童の割合 R5 男子:90%、女子:84.4% R6 男子:87.1%、女子:90%	○体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の割合 R5 男子:3.8%、女子:12.5% R6 男子:6.4%、女子:6.7%	バスケットボールのゴールや遊具の設置、ソフトバレーボールの使用など遊びの多様化により、高学年女子の外遊びが増えた。今後も、子どもが「遊びたい」と思うような手だてを探っていく。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

柔軟性や持久力を高めるための運動を取り入れた体育学習

・ウォーミングアップとして、心拍数を上げるリズム縄跳びや鬼遊び、持久走を取り入れる。また、運動後のクールダウンを必ず行うことで、筋肉や腱を緩めるとともに、けが防止につなげる。

1人1台端末を活用した体育学習

・動画から「動きのこつ」の視覚化を図り、子どもの目標を明確にする。また、カメラ機能を活用して自分の動きを客観的に捉え、解決のための手だてを考えるようにする。

アスリートに学ぶ体育学習

・アスリート派遣事業等を活用し、外部講師による出前授業を行うことで、体を動かす楽しさを学ぶ。

委員会活動と連携した運動機会の保障

・元気チャレなわ委員会の活動として、縄跳び検定を設定することで、体力向上に対して主体的に取り組む姿勢を育む。

仲間と共有し合って遊ぶ新しい遊具の設置

・ドッジボールコートやバスケットボールのゴールの常設、ボールの種類を増やす等、子どもが外で楽しく遊ぶような環境を整える。
・長縄やダブルダッチなど、集団での縄跳び遊びを推奨する。

さっぽろっこ「自治的な活動」と関連付けた取組

・6学年委員会の活動として、休み時間に外で多くの仲間と遊ぶための方法を考え、全校児童に発信する取組を行う。

「健康」を総合的に捉えた健康教育の推進

・保健や理科と関連付けた「こころ・からだ・いのちの学習」のカリキュラムを基に、健康を科学的に捉えるようにする。
・多角的な視点で「健康」を捉えるために、3年生と5年生でインターネットの使い方やネットトラブルに関する学習を位置付ける。
・養護教諭や栄養教諭、助産師等の外部講師を活用することで、健康に関する指導の充実を図る。

家庭・地域との連携・協働

○学校独自の児童・生徒アンケートや保護者アンケート等の活用
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の調査結果の活用

○学校評議委員会・学校関係者評価等の活用
○小中パートナー会議による取組成果の交流